

梅 檀

変革の時代、2050年へ 学校教育イノベーション

学校の授業も変わる

急速な社会の変容、情報化、ITの普及、グローバル化などこれからの学校教育の在り方、授業の在り方が大きく変わろうとしています。

2050年に向けて世界教育学会（OECD）は曖昧な社会、迷走する社会、複雑な社会、そして「予測が困難な社会」が訪れると提言しました。文部科学省はその提言を受け2020年に小学校の新学習指導要領でこれからの新しい時代の学校の在り方、授業の在り方を示した。そのキーワードが「主体的・対話的深い学び」である。保護者のみなさんが経験しなかった授業スタイルが現在辺土名小でも進められています。子どもの「主体性と対話」を大切にするために机の配置をコの字型にしたり、教師がいすに座っての授業風景が見られると思いますが、辺土名小学校の未来に向けた新しい学習スタイルであることにご理解いただきたいと思えます。



コの字の教室、教師が座っての授業には、ちゃんとその目的と意図がある。それは、「主体と対話」



なぜ「コ」の字型なんですか？

文科省の前川喜平先生（文科省前次官）は2014年に「学校で学ぶ」ということは、教師が黒板に書いたことを覚えるというスタイルが学校で学んだということにはならない。」と明言した。これは従来の日本の教室で行われてきた教師主導型の一斉授業から子どもが主体になる授業形態への転換を意味したものである。「コ」字型の有効性は何と言っても、①すべての子どもが先生の声が聞きやすい。②すべての子どもが先生の表情が見やすい。③子ども同士の対話が自然な形でできることである。教師が座っていることも、グループでの協同解決にもちゃんとその目的と意図があります。いつかの機会に記させていただきます。



おかつ民話語りの会

日本民話会の荒石かつえさん通称おかつさんが本校にて民話の実演講話をしていただきました。読み聞かせでもなく、本も持たずに日本の民話を語り一つで子ども達に聞かせてくれました。



おかつさんの「語り」口調にも感じましたが、私は子どもたちの聴き入る視線に釘付けでした（写真下）。お忙しい中、感謝いたします。



クラブ発足集会、地域の方々がつくる

平成30年度のクラブ活動が始まります。4年生から6年生を対象とした。年間8回程度の異学年での活動となります。辺土名小のクラブ活動の講師は地域の十九名の有志のみなさんにご指導にあたります。



発足式では、講師の紹介と委嘱状の交付が行われました。その後、担当の先生と一緒に一年間の活動計画を立てました。



講師の皆さま、一年間お世話になります。よろしくお願ひします。子どもたちは日常と違った異学年共生や教室でのお勉強との違いに大いに期待しています。また、学校の教育課程の経営に地域の皆さまの参画をいただけることを辺土名小の誇りと考えています。惜しまないご協力に感謝と敬意を表します。

養護教諭実習生 宮城成実先生

5月21日から、本校にて養護教諭の実習生が一緒に学んでいます。出身は国頭村安田出身です。養護教諭の洋子先生と一緒に子ども達と毎日楽しく過ごしながら、多くを学んでもらいたいです。下の写真は、2年生への朝の読み聞かせの風景です。子ども達の夢中になって聞き入る目線に緊張したのではないのでしょうか。頑張れ未来の「若人達よ。」

